

平成 29 年度購入文化財一覧【京都国立博物館】

- 1 ○種 別 (絵画)
○名 称 重要文化財 洞庭赤壁図巻 (どうていせきへきずかん)
○作 者 等 池大雅 (いけのたいが) 筆
○時 代 江戸時代 明和 8 年 (1771)
○品 質 絹本着色
○員 数 1 巻
○寸 法 等 縦 55.1×横 297.5 cm

○作品概要 古来中国の名勝として知られた洞庭湖と赤壁を一望のもとに収め、金碧青緑山水の画法によって描いている。款記から池大雅 (1723~76) が 49 歳の時に制作したことが明らかな、晩年の代表的作品である。韓天寿の題箋、宮崎筠圃の題字、細合半齋および頼春水の跋文を伴う。跋文から、西村孟清が発注者だったこと、大雅が明代の『新鐫海内奇観』を種本としたことがわかる。さらに、桑山玉洲『絵事鄙言』は、本作の「湖面ノ水紋」の表現に琵琶湖へ通い観察を重ねた成果が生かされていると述べる。大雅は舶載された画譜類を頻繁に制作の参考としたが、それに加え実景の観察をも重視していることは、その制作態度の根幹にかかわる事柄として重要である。

○購入金額 129,600,000 円



- 2 ○種 別 (絵画)
○名 称 花鳥図 (かちょうず)
○作 者 等 如寄 (じょき) 筆
○時 代 室町時代 15~16 世紀
○品 質 紙本淡彩
○員 数 1 幅
○寸 法 等 縦 29.1 cm、横 25.6 cm

○作品概要 如寄は別号を禰屋、通称を次郎という詩文にも長じた文化人で、明応 4 年 (1495) に遣明使節団に加わり、中国に渡ったことが知られる。遺作は十指に満たないが、その中には明の版本に基づいたと思しい西湖図や中国の院体画に学んだ花鳥図などがあり、己の入明経験を意識した作画を行っていたことがわかる。本図もそのひとつで、やはり院体系の折枝画を参考に描かれたものであろう。小品ながら、小禽の生き生きした動勢や細やかな羽毛表現は見応えがある。画面の寸法から推して、当初は画帖に貼付されていたものと思われる。

○購入金額 3,000,000 円



- 3 ○種 別 (陶磁)
○名 称 鼠志野草文鉢 (ねずみしのそうもんぼち)
○時 代 桃山時代 (17 世紀)
○品 質 施釉陶器
○員 数 1 口
○寸 法 等 高 6.8 cm 口径 28.7 cm×28.5 cm

○作品概要 見込みいっばいに草文が描かれた鼠志野の鉢である。全体に釉が掛かり、底には三つの脚が付けられている。口縁部は鐔状になっており、その部分に文様帯を設け、草文や格子状の文様を描いている。焼き上がりがよく、釉調もよく、そして、全体に精緻な筆遣いで描かれた文様も見事である。見込みに目跡が 6 カ所、底部の脚の付近にも当て具痕が残る。鼠志野の鉢は一作ごとに作行きが大きく異なるのも、ひとつの特徴といえ、額皿を含め、本作のように絵画性を意識して作られたもの数多く残る。

○購入金額 50,000,000 円



- 4 ○種 別 〈陶磁〉
 ○名 称 色絵獅子山水文八角水指 (いろえししさんすいもんはっかくみずさし)
 ○作 者 等 奥田颯川作
 ○時 代 江戸時代 (18~19 世紀)
 ○品 質 色絵磁器
 ○員 数 1 口
 ○寸 法 等 高 14.2 cm 口径 15.1 cm×16.2 cm 底径 13.0 cm×13.8 cm
 ○作品概要 中国・明時代末の呉須赤絵と見紛うほどによく模した色絵水指である。江戸時代の後半に活躍した名工、奥田颯川 (一七五三~一八一) の作である。八角の形状をしており、口部には虫喰いを作り出している。胴部は四面ずつ赤絵で枠囲いをし、二場面を構成している。一面は龍と山水文をえがき、もう一方は丸龍文と二重方形字文三カ所ずつ描いている。高台内には、颯川の赤絵具で花押が書かれている。
- 購入金額 13,000,000 円



- 5 ○種 別 〈陶磁〉
 ○名 称 灰釉瓶子 美濃須衛窯 (かいゆうへいし みのすえよう)
 ○時 代 鎌倉時代 (13 世紀)
 ○品 質 灰釉陶器
 ○員 数 1 口
 ○寸 法 等 高 32.6 cm 口径 4.5 cm 底径 14.0 cm×13.7 cm
 ○作品概要 頭部から肩にかけて黄緑色の釉葉が掛けられた梅瓶形の瓶子である。赤褐色の焼肌が印象的で、丁寧な轆轤成形がなされている。大きく張り出した肩部には二重沈線を重ねるように廻らしている。釉もよく溶けており、釉筋ができ、よい景色を作り出している。箱には、「伊賀 瓶子」と貼紙があり、古くは伊賀焼と認識されていたようであるが、釉調や褐色の焼肌の様子などから、美濃須衛窯で焼かれたものと思われる。
- 購入金額 32,400,000 円



- 6 ○種 別 〈陶磁〉
 ○名 称 有来新兵衛屋敷跡出土茶陶（うらいしんべえやしきあとしゅつどちゃとう）
 ○時 代 桃山時代（17世紀）
 ○品 質 陶器
 ○員 数 3点
 ○寸 法 等 志野隅切四方鉢 高 7.2 cm 口径 14.8 cm×14.9 cm
 信楽水指（竹字有）高 16.9 cm 口径 15.2 cm×15.0 cm 底径 18.6 cm
 信楽水指（印有）高 17.6 cm 口径 18.5 cm×19.4 cm 底径 18.0 cm

○作品概要 京都の町人で糸割符商を営んでいたとされる有来新兵衛の屋敷跡から出土したとされる茶陶 3点である。新兵衛の屋敷は、京都市中京区三条通柳馬場にあったが、江戸時代寛文年間（一六六一～七三）に隣家の杉浦家がい取っている。その後、享保年間（一七一六～三六）に屋敷普請を行った際に、地下より数多くのやきものが出土したとされる。志野隅切四方鉢 1点、信楽水指 2点の計 3点もこのときに出土したものとされている。出土したものの多くは、一群として伝来してきたが、近年散逸してしまった。

○購入金額 8,640,000 円



- 7 ○種 別 〈陶磁〉
 ○名 称 灰釉壺 渥美窯（かいゆうつぼ あつみよう）
 ○時 代 平安時代
 ○品 質 焼締陶器
 ○員 数 1口
 ○寸 法 等 高 40.0 cm 胴径 36.8 cm 底径 14.0 cm

○作品概要 頸部から肩にかけてたつぷりと灰釉が施された焼締めの壺である。本作は口縁部が欠損しているものの、白色の地色に、やや青みの掛かった自然釉が見事にかかり、釉景色を作り出している。胴の下半には縦方向に調整痕があり、その上に継ぎ痕と叩き目があり、紐輪積み成形され、つながれたことがよくみてとれる。釉調や成形技法などから、渥美窯の製品と思われる。

○購入金額 15,528,000 円



- 8 ○種 別 〈陶磁〉
 ○名 称 須恵器長頸壺 猿投窯（すえきちようけいこ さなげよう）
 ○時 代 平安時代（9世紀）
 ○品 質 須恵器
 ○員 数 1口
 ○寸 法 等 高 31.5 cm 胴径 21.5 cm 高台径 13.7 cm×14.0 cm

○作品概要 須恵器の長頸壺である。口部がやや外反してはいるが、まっすぐにすらりと伸びた頸部の中ほどには二本の圏線がめぐっている。底部には高台が付き、たつぷりとした胴の肩は強く張り出している。口縁から肩部にかけて明緑色の自然釉が厚く掛かっており、よく溶けて見事な発色をみせている。胎土や釉調、形態などから、猿投窯の製品と思われる。

○購入金額 8,640,000 円



- 9 ○種 別 〈陶磁〉
○名 称 黄釉樂舞人俑（おうゆうがくぶじんよう）
○時 代 唐時代（8世紀）
○品 質 施釉陶器
○員 数 6 軀
○寸 法 等 高 19.0 cm～21.3 cm
○作品概要 琵琶、笛、銅鈸の樂器を奏でる人物とそれにあわせと舞い踊る人物とを表した 6 軀の陶俑である。全体に赤みを帯びた様子がみえることから、赤色の加彩がなされており、その上に黄釉が掛けられている。着用する衣服などからも全て女性を表している。顔や髪表情、衣服や釉調、胎土などから、一群として作られたものと思われる。琵琶を持つ人物については、他の人物に比べて背が高い。多くの陶俑と同じく、土の付着がみられることから、明器として墓に収められていたものであろう。
- 購入金額 15,000,000 円



- 10 ○種 別 〈陶磁〉
○名 称 青磁貼花龍文盤 龍泉窯（せいじちようかりゆうもんばん りゆうせんよう）
○時 代 中国・元時代（13～14世紀）
○品 質 青磁
○員 数 1 枚
○寸 法 等 高 8.5 cm 口径 34.5 cm×34.2 cm 底径 12.9 cm
○作品概要 見込みに貼り付け技法（貼花）により、龍文の装飾を施し、その周囲に雲文を廻らせた青磁盤である。口縁部は、鏢状に開いた形状となっている。底部は基筒底で、高台内に窯道具を当てた部分が蛇の目状に現れて露胎となっており、赤みを帯びた色をみせる。胴部の外側には、鎬蓮弁文が施されている。青緑色の釉薬が厚く掛けられており、発色もよい。こうした青磁の製品は、鎌倉時代以降、中国との貿易によって大量に日本に持ち込まれ、珍重されてきた。
- 購入金額 10,000,000 円



- 12 ○種 別 〈陶磁〉
○名 称 須恵器甕 猿投窯 (すえきかめ さなげよう)
○時 代 奈良～平安時代 (8～9 世紀)
○品 質 須恵器
○員 数 1 口
○寸 法 等 高 42.3 cm 口径 26.7 cm 胴径 39.0 cm 底径 18.3 cm
○作品概要 火色が胴部によく表われた猿投窯の甕である。頸部から下、胴部から裾部にかけて叩き痕がナデ消されずに残され、一方は窯中でよく火がまわり、赤く焼締めた様子で、もう一方は肩から胴の中程にかけて自然釉が掛かっている。口縁部に二箇所
の欠けがあるものの、口縁は外反し、玉縁上に仕上げられている。
○購入金額 5,000,000 円

